



HABITAT まちづくり通信 Vol.10



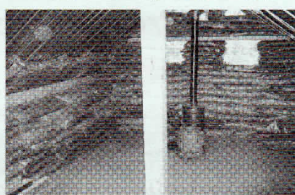
パキスタン緊急募金キャンペーン

2005年10月8日にパキスタン北部で発生したパキスタン大地震では、7万3千人が犠牲となり、約350万人の方々被災しました。被災地は地震により道路が分断され、救援物資を届けることも厳しい状況でした。地震で家を失った人々は、そのような中にありながらも、先祖伝来の土地や、大切な財産である家畜を手放すことを恐れて、他の土地へ避難ができませんでした。厳しい冬の寒さを迎えるとしていた中で、救援物資も届かないまま孤立し凍死や肺炎などの二次被害も報告される深刻な状況でした。2005年11月、被災した山間部山村の方々の安全確保のために、国連ハビタットは、国連開発計画(UNDP)、世界自然保護基金(WWF)や、多くのパキスタン国内NGOと共同で「地震により被災した山間部山村のための越冬シェルター事業」を立ち上げました。シェルターは土嚢で壁をつくり、回収木材を使用した柱と梁にトタンの屋根をつけた家で、一帯が寝起きし、牛や山羊等の家畜を飼育できる空間を確保したものです。この冬を越すための仮住居であり、屋根に使用したトタン板と木材は春季に始まる恒久住宅再建に再利用するという計画です。

日本ハビタット協会では、一人でも多くの被災者が安心して暮らせるようにと、11月29日から12月31日の1ヶ月限定で「パキスタン地震被災者に緊急越冬シェルター」緊急募金キャンペーンを実施しました。1ヶ月という短い期間でしたが、日本全国の個人、法人の方々から9,146,868円の募金をお寄せいただくことができました。皆様からの募金は、2006年1月中旬に、国連ハビタットを通してパキスタンに送金し、パキスタン北西境界州バラス・バレーの160戸の越冬シェルター建設に使用させていただいております。皆様のご支援・ご協力が心から感謝申し上げます。



「越冬シェルター外観(1軒約55000円)」



「越冬シェルター内部の様子」



「ハビTシャツが誕生記念品に！」



「キャナルでチャリティイベント」



「マリ大使名古屋事務所開設展示風景」

緊急募金キャンペーンに賛同していただいた企画・イベント等

(資料提供: 国連ハビタット福岡事務所)

2005年10月8日正午(日本時間)に、パキスタン北部で起きた大地震では多くの方々の尊い命が犠牲になりました。被災された多くの方々の越冬のため、日本ハビタット協会が実施した緊急募金キャンペーン「パキスタン地震被災者に緊急越冬シェルター」には、日本全国の多くの方々から温かいお気持ちを寄せいただくことができました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。募金は早速、パキスタンでのシェルター建設に活用され、現在も工事が行われております。現地の方々の様子や、活動状況は今後も皆様にお伝えさせて頂きたいと存じます。被災された方々の一刻も早いご回復を心からお祈り申し上げますと共に、皆様方から引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国連ハビタット親善大使 / 日本ハビタット協会副会長 マリ・クリスティース



～東京事務局・ボランティア・デーの活動より～

毎月第1・3火曜日(13:00-)は、ボランティアデーで、毎回大勢のボランティアスタッフに参加して頂いています。募金として寄せられる外貨コインの国別の仕分けや、まちづくり通信の発送作業、展示物の作成などを行いながら、ハビタットの活動について語りあい、楽しく活動をしています。是非皆様も、お気軽にご参加下さい。



(コインの仕分けもみんなで行います！)

会費納入をお願い致します

日本ハビタット協会は設立以来、皆様のご支援により、様々な活動を展開することが出来ました。皆様からのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。引き続き、新たな活動を展開するためにも皆様に会費の納入をお願い致します。

郵便振替: 00150-2-17590 日本ハビタット協会

個人会員 3,000円 法人会員 30,000円

『紛争・災害後のまちづくり』ご協力下さい

国連ハビタットは、人の幸せの基本である「まちづくり」を様々な角度から考え、世界中の人達が安心して毎日が送れるよう、居住環境をサポートしています。「人の幸せをささえる“まちづくり”」に皆様からの御協力を宜しくお願い致します。

●郵便振替: 01790-1-107035

日本ハビタット協会・まちづくり基金口

●みずほ銀行 麹町支店 普通口座

2108468 日本ハビタット協会

●あおぞら銀行 本店 普通口座

6753952-001 特定非営利活動法人日本ハビタット協会

募金箱をお持ちの皆様

いつもご協力有難うございます。現在お手持ちの募金箱に募金がございましたら、是非一度、上記口座へお振込み下さいようお願い申し上げます。

書き損じハガキをお送りください！

皆様のお手元に眠っている書損じはがきが、「紛争・災害後のまちづくり再建復興事業」に役立ちます。是非、「ハビタットスマイルカード係」までご寄付下さい。

ボランティアスタッフ 大募集

展示やシンポジウム、外貨コイン分け、発送作業など、事務局ボランティアを募集しています。毎月第一・第三火曜日の午後には、ボランティアデーです。是非、ご参加ください。

(福岡支部も随時募集しています！)

ハビタットTシャツ募金 1口1,800円

1口¥1800のご寄付で、もちろんハビタットTシャツを差し上げます。色は赤・青・白の3色で、各サイズはS・M・L。先着500名までのお早めに！お申込は、福岡支部までFAXでお願いします。(連絡先は下記掲載)



2005年10月～2006年3月 活動報告

10月1・2日	グローバルフェスティバル
10月3日	世界ハビタット・デー2005
10月15・16日	地球市民だんたく2005
10月24日	国連デー記念シンポジウム
10月25・26日	絵画コンクール表彰式 in 佐賀・長崎
10月26・27日	国連ハビタットリポート(ハビタットフレンズ仙台)
10月28日	埼玉県鳩ヶ谷市立里中学校 国際理解学習
10月29・30日	国際協力フェスタ
11月13日	ねんりんびつ
2006年2月4・5日	ワン・ワールドフェスティバル
2006年2月11日	チャリティコンサート in 札幌
2006年3月8日	2006年国際女性デー
2006年3月19日	キャリア・フォーラム in 福岡
毎月第①・③火曜日	ボランティアデー(東京本部)

2006年4月以降 活動予定

5月11日	新潟市立下山中学校 国際理解学習
6月	日本ハビタット協会理事会・総会
6月19・23日	第3回世界都市水フォーラム
7月	ハビタットフレンズ仙台・チャリティコンサート
9月14～18日	地球市民だんたく in アジア太平洋フェスティバル
9月30日～10月1日	グローバルフェスタ JAPAN2006
10月2日	世界ハビタット・デー2006
10月24日	国連デー記念シンポジウム
11月18・19日	横浜国際協力フェスタ2006
2007年3月8日	2007年国際女性デー
毎月第①・③火曜日	ボランティアデー(東京本部)

発行 特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

(発行責任 山本博子・編集責任 佐伯恵美) 2006年4月発行

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-12-6 おか会館3階

TEL03-3512-0355 e-mail: info@habitat.or.jp http://www.habitat.or.jp

〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡3階

TEL 092-724-7121 e-mail: fukuoka@habitat.or.jp

アフガニスタン・ファラー 命の水プロジェクト報告



水汲みに並ぶ子供たちも笑顔です

〔アフガニスタン・ファラー州〕2005年3月～2006年1月までの経過
2005年10月2日、世界ハビタットデーを記念して国連ハビタット・ファラー事務所はファラー第5地区を訪問しました。この地区は、ファラー市と日本ハビタット協会の支援（皆様から頂戴した募金等の浄財）で給水事業が実施されており、一部の配水管敷設工事を除いては全てが完了しています。配水管を敷設するために計画されていた全長4,200mの掘削工事も既に98%が完成していましたが、この日現地を訪問した、ハビタットのスタッフが残りの2%にあたる250mの掘削を行い、この取組みはコミュニティ住民、市長、知事に温かく受け入れられました。「いのちの水事業」の活動も一旦完了し、落成式がファラー州知事、市長、各団体の代表者たちの出席のもと挙行されました。この事業によりファラー市は1200世帯の安全な水の確保ができるようになりましたが、いまだ治安も不安定なこの国の、一人でも多くの人々が安全な水の確保が出来るようにと、先日、皆様からの浄財を送金いたしました。日本からの追加支援とファラー市の支援と合わせ、予定では、270世帯の水の供給が可能になり、安全な水の供給エリアを拡大する事で住民の健康の改善や地域の経済の発展が期待されることとなるでしょう。

〔資料提供：国連ハビタット福岡事務所〕

カンボジアの女性のための支援プロジェクト報告

〔カンボジア・プノンペン〕2006年2月までの経過

ハビタットは、プノンペン全域のスラムや不法居住地域で、コミュニティ（地域住民）と共に生活環境の改善に取り組んでいます。しかし、貧困の悪循環が続くこの国では特に女性の自立も厳しいのが現状です。この度、国際ソロプチミスト大宰府クラブから10周年記念行事の一環として「カンボジアの女性・高齢者支援寄付金」を頂戴し、事業はスタートしました。頂きました浄財は、日本ハビタット協会を通じて、国連ハビタットの「女性・高齢者自立支援共同事業」に使用されています。この事業対象者はプノンペンのセンソク・コミュニティの特に夫を亡くした女性83名（高齢者含）で、受益者との話し合いによって縫製事業と小口融資事業の2つに決定しました。現在は新しいミシンを24台購入し、女性の為の縫製作業センターを建設中です。主に女性の高齢者を対象とした小口融資事業も食料・雑貨販売店を営むことが出来はじめています。これら事業によって、女性の雇用機会の創出や高齢者の生活環境の改善、また女性の社会進出の促進にもつながっていきます。

〔資料提供：国連ハビタット福岡事務所〕



受益者(女性)との話し合いの様子



購入したミシンの前に立つ女性

タンザニアの子どもたちの支援プロジェクト開始！

2005年12月19日、タンザニア Luguruni にある、Joha Girls Secondary School を支援するために、5,000ドル（日本円 587,000円）を送金いたしました。この学校は孤児の女の子のための学校です。日本ハビタット協会では、「タンザニア支援プロジェクト」を立ち上げ、今後この学校の支援を開始する事となりました。1口1000円です。皆様からのご協力を、宜しくお願い申し上げます。

お振込み先 郵便振替：00150-2-17590 口座名：日本ハビタット協会

※『タンザニア支援』とご明記の上、宜しくお願い致します。



チャリティライブ&トークショー in 札幌

habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat habitat

「人の幸せをささえるまちづくりは今」2006年2月11日（日）北海道厚生年金会館 総来場者数：820名

第一部では、高橋はるみ北海道知事をお招きし、人々が安心して暮らせるまち、活気のあるまちをテーマにトークショーを開催。来場者からは様々な質問が寄せられ、熱気に満ちたセッションになりました。そして第二部では、地元北海道の人気歌手、神山慶子氏によるライブショーを開催。チェリスト富成倫子氏も参加し、最後は会場が一体となって平和を愛する歌を熱唱しました。今収益金は、日本ハビタット協会を通して国連ハビタット福岡事務所へ寄付され、カンボジアにおける「いのちの水プロジェクト」に活用されます。ご支援・ご協力頂きました皆様、会場へお越しくださいました皆様、心より感謝申し上げます。



主催：日本ハビタット協会、北海道新聞社、北海道文化放送、北海道厚生年金会館 後援：北海道、北海道経済連合会、札幌商工会議所、国連ハビタット福岡事務所 協賛：ロータリークラブ、北海道国際航空株式会社、株式会社あおぞら銀行 特別協賛：東邦交通株式会社、北海道旅客鉄道株式会社、東京海上日動火災株式会社、サッポロビール株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ北海道、大成建設株式会社、東日本電信電話株式会社、株式会社アープ建設研究所、株式会社東林商会、社団法人北海道観光連盟、ソフレ・ド・バリ、国際ロータリー2510地区、札幌西ロータリークラブ、札幌ロータリークラブ 協力：株式会社電通北海道、竹田印刷株式会社、愛知産業大学 デザイナー：宮下浩

habitat habitat

～活動報告～



11月14～15日 ティバジュカ事務局長来日

- 国連ハビタット・ティバジュカ事務局長が来日の際に昨年の西方沖地震で被害が大きかった福岡県の玄海島を視察されました。（左）
- 今年の絵画コンクールの表彰式はマリ親善大使が長崎・佐賀の小学校へ出向き実施されました。（右写真）



10月25～26日 絵画コンクール表彰式



10月1～2日 グローバルフェスティバル



10月15～16日 地球市民どんたく2005



10月28日 中学生が体部で国際理解学習

ハビタットフレンズ仙台 ～国連ハビタットリポート「Live Together いっしょに生きよう」～

2005年10月26日・27日の2日間、仙台市のガス局ショールーム ガスサロンでハビタットフレンズ仙台主催の展示会～国連ハビタットリポート「Live Together いっしょに生きよう」～が開催されました。会場では、ボランティア活動の一環として、外国コインの仕分け作業などが行われ皆様熱心に参加されていました。



「守屋のりえ ハビタット・フレンズ仙台代表の感想」

～子育て中のママに世界を知ってもらおう。外国人ボランティアとともに、国境を越え、愛を届けよう～ 少々照れくさくなる様なコンセプトで行ったイベント、日本ハビタット協会の応援で何とか終了できました。山本事務局長や外国人ボランティアとのセッション、パネル展が主な内容でしたが、愛を届けようと思った私達が、逆に多くの方々から愛を頂きました。ハビタット・フレンズの輪が世界に広がることを祈りつつ、今後も仙台からできることを少しずつ実現して参ります。

